

TAC設定対象魚種について

1. TAC設定対象魚種

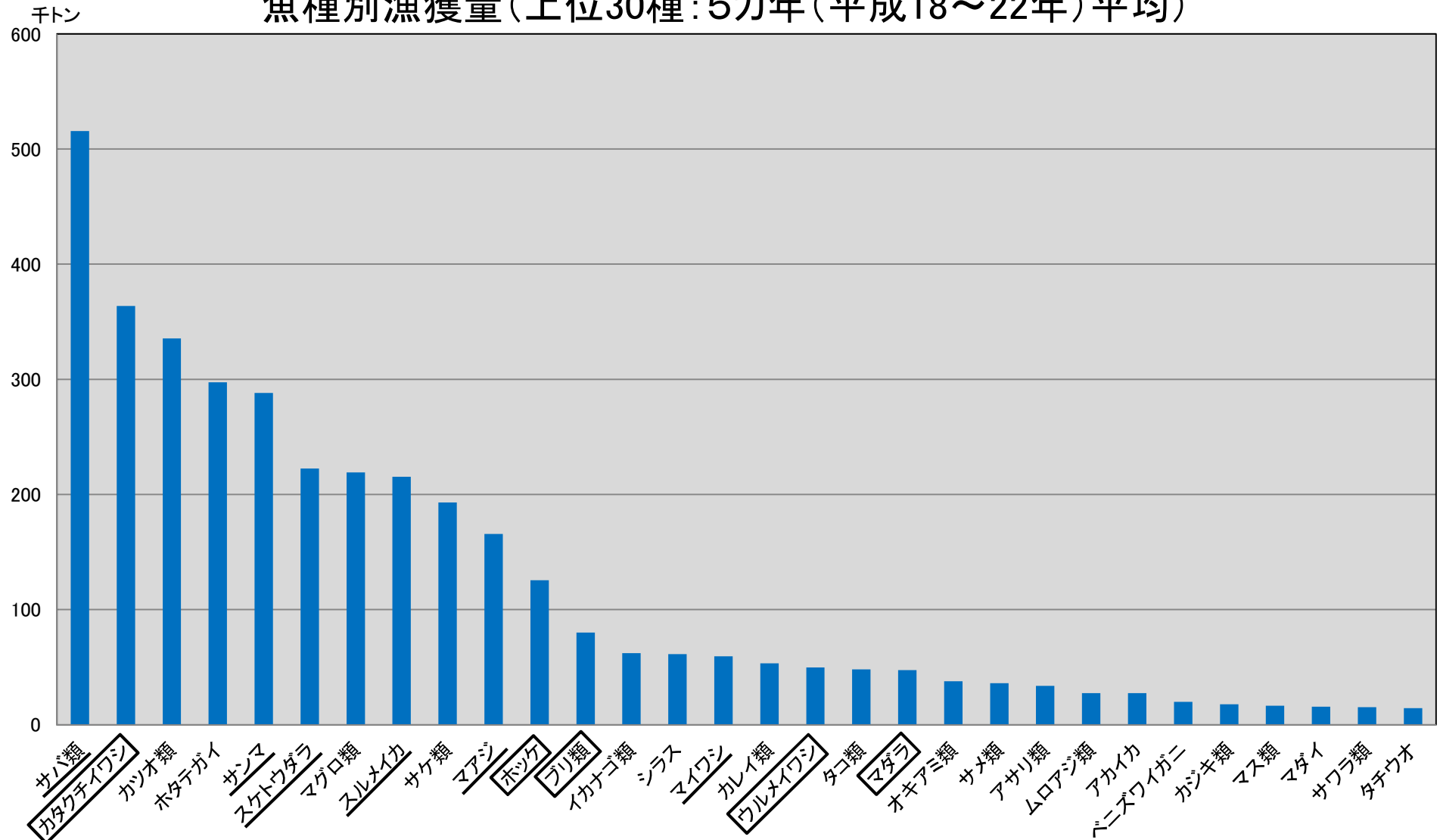
- 我が国においてTAC対象魚種は、以下の基準のいずれかに該当するものであって、漁獲可能量を決定するに足るだけの科学的知見が蓄積されているものの中から選定。
 - ① 採捕量及び消費量が多く、国民生活上又は漁業上重要な海洋生物資源
 - ② 資源状態が悪く、緊急に漁獲可能量を決定すること等により保存及び管理を行うことが必要な海洋生物資源
 - ③ 我が国周辺海域で外国漁船による漁獲が行われている海洋生物資源
- 現在、サンマ、スケトウダラ、マアジ、マイワシ、マサバ及びゴマサバ、スルメイカ、ズワイガニの7魚種がTACの対象。

これら7魚種の漁獲量は、国際的な資源管理の対象となるカツオ・マグロ類等を除く、我が国TACの対象となり得る魚種の漁獲量の約5割を占める。

2. 追加魚種の候補

- 現在のTAC対象魚種に次いで漁獲量が多く、国民生活上又は漁業上重要な魚種として、カタクチイワシ、ホッケ、ブリ、ウルメイワシ、マダラが挙げられる。
- これら魚種のうち、カタクチイワシ、ブリ、ウルメイワシ、マダラについては、TACの決定に足る科学的知見が必ずしも十分でないことに加え、資源状況も安定していることから、現時点でTAC対象種に追加する必要性は低い。
- またホッケについては、近年、漁獲の主体となっている道北系群の資源状況が低位・減少傾向にあるものの、カタクチイワシ等と同様、TACの決定に足る科学的知見が十分でないことに加え、北海道において、ホッケ道北系群を漁獲する全ての漁業者が参加して自主的な漁獲努力量の削減に取り組むため、行政・研究・漁業関係者による積極的な検討が進められていることから、現時点でTAC対象魚種に追加する必要性は低いと考えられる。

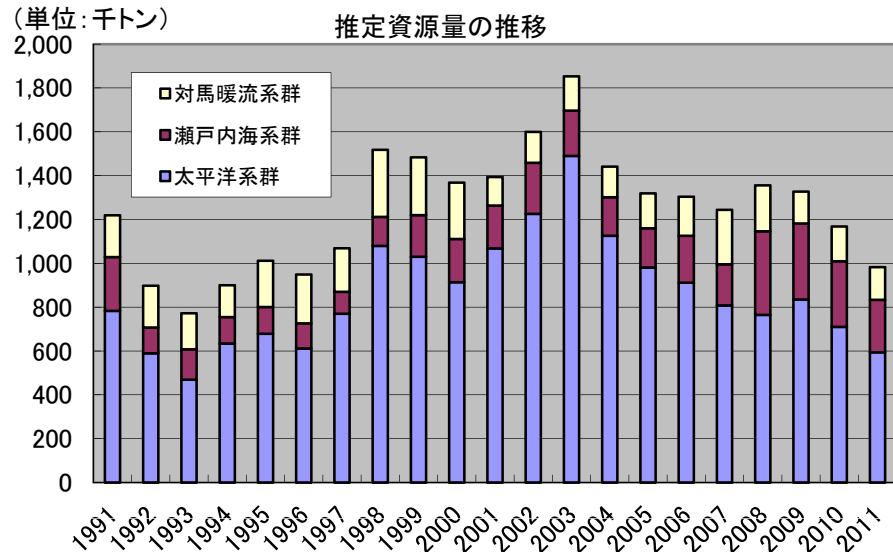
魚種別漁獲量(上位30種:5カ年(平成18~22年)平均)



◎海面漁業漁獲量のうち、上位30種の漁獲量
 (魚種分類は生産統計年報によっており、種を分類できない「その他」を除く)
 (下線のものは現在のTAC魚種)

かたくちいわし

資源の状態



資源の状態	
太平洋系群	中位・減少
瀬戸内海系群	中位・横ばい
対馬暖流系群	中位・減少

主な漁業種類: 大中型まき網、中小型まき網、船びき網、定置網

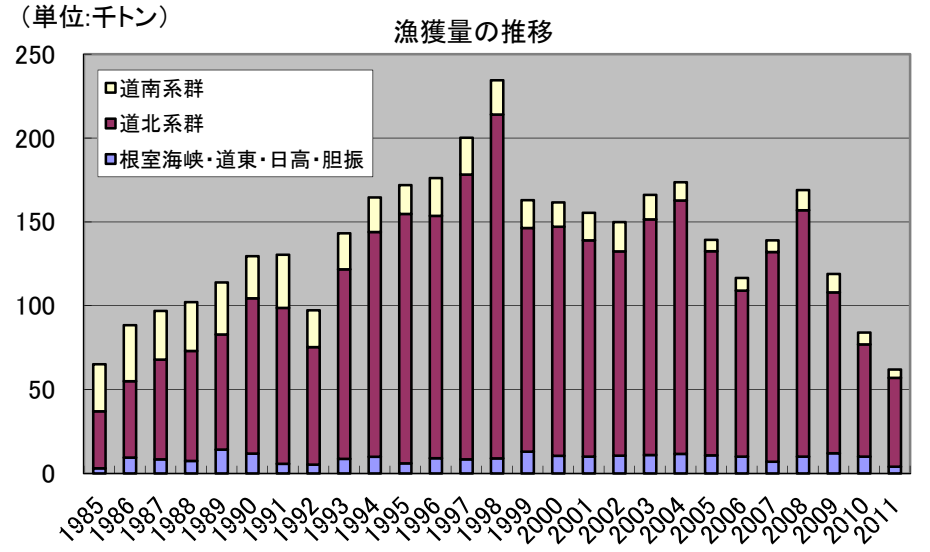
資源回復計画を実施 (瀬戸内海系群)

特徴

- ・ 資源は総じて中位・減少
- ・ 海洋環境の影響を特に強く受ける資源特性のため、精度の高い資源量の推定や将来予測は難しい。
- ・ 海洋環境の影響で資源が大きく変動する他、沿岸での漁獲が多く漁場の変動も大きい。

ほっけ

資源の状態



資源の状態	
道南系群	低位・減少
道北系群	低位・減少
根室・道東・日高・胆振系群	低位・減少

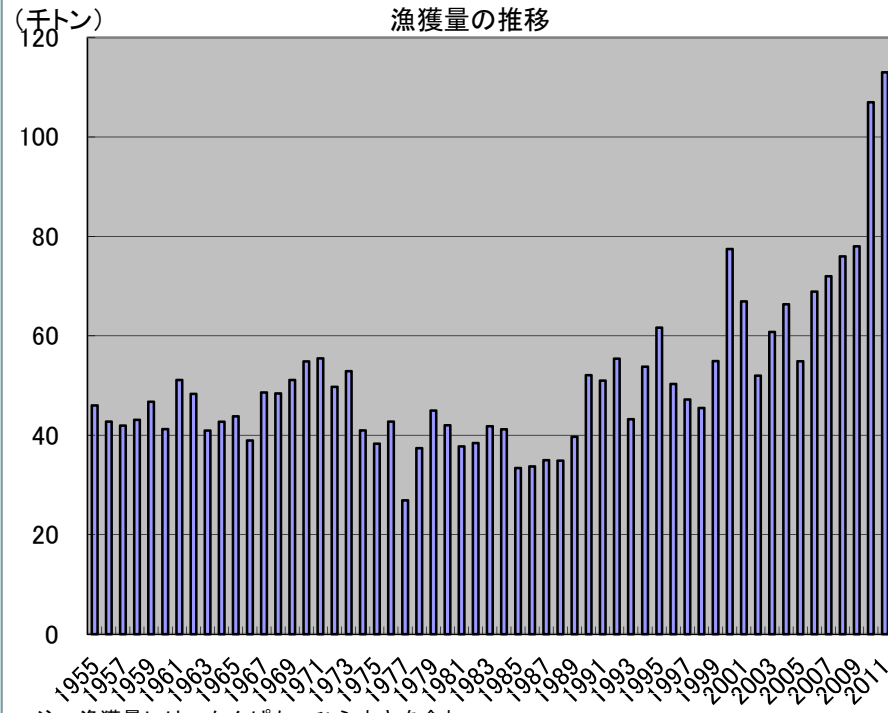
主な漁業種類: 沖合底びき網、定置網、刺し網

特徴

- ・ 資源は、総じて低位・減少
- ・ 生物学的知見は少なく、漁獲動向をベースとしてABCを算出。分布・回遊等の知見は少なく、資源量推定や将来予測は非常に難しい。

ぶり

資源の状態



資源の状態

高位・増加

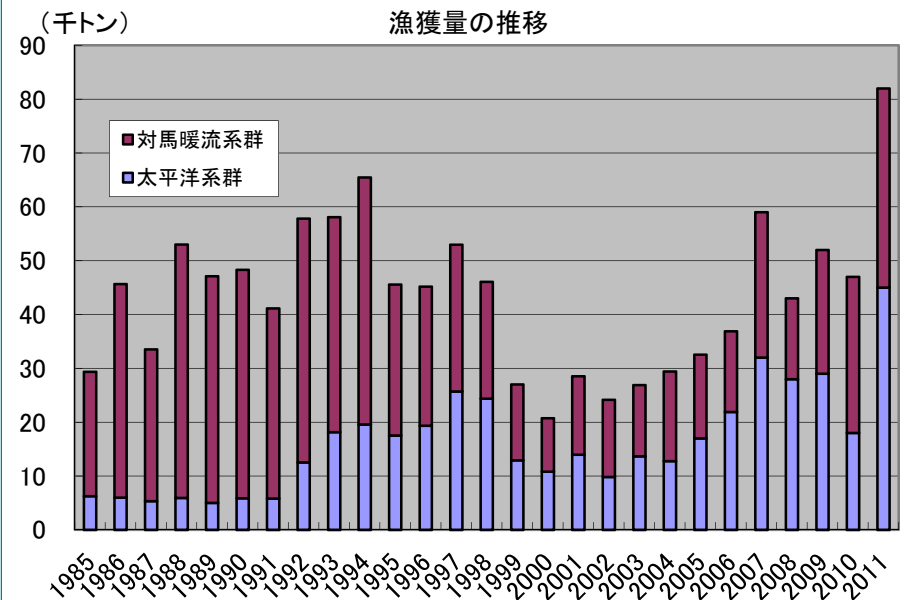
主な漁業種類：定置網(46%)、
大中型まき網、中小型まき網

特徴

- ・ 資源は高位・増加
- ・ 生物学的知見は十分ではなく、主に漁獲動向をベースとしてABCを算出。
- ・ 選択漁獲の困難な定置網の漁獲量が全体の5割を占め、回遊経路次第で定置網の漁獲が大きく変動。

うるめいわし

資源の状態



資源の状態

太平洋系群 高位・増加

対馬暖流系群 中位・増加

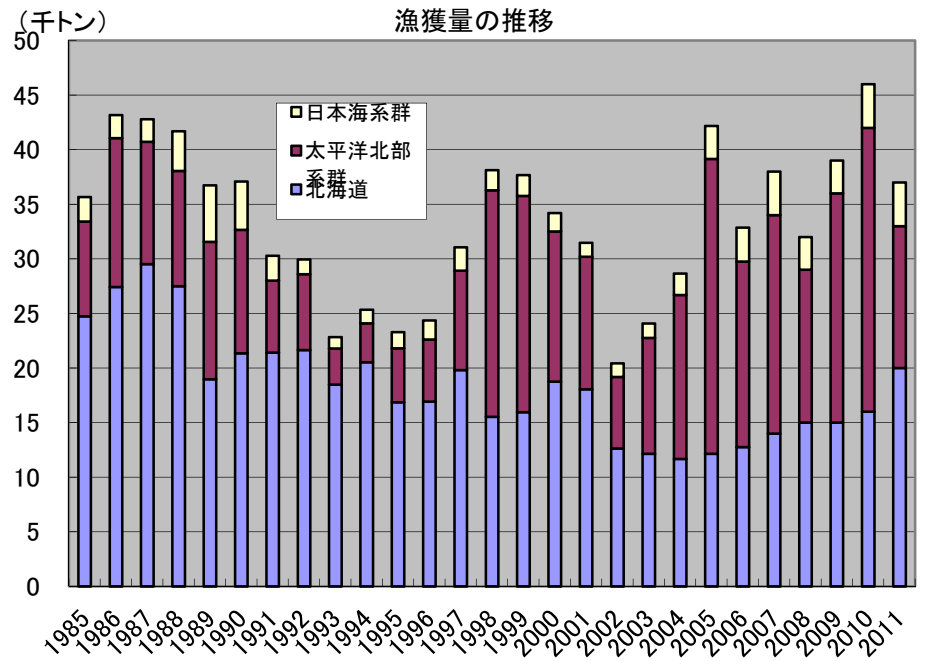
主な漁業種類：大中型
まき網、中小型まき網、
棒受網、定置網

特徴

- ・ 資源は太平洋系群で高位・増加、対馬暖流系群で中位・増加
- ・ 海洋環境の影響を特に強く受ける資源特性のため、精度の高い資源量の推定や将来予測は難しい。
- ・ 海洋環境の影響で資源が大きく変動する他、沿岸での漁獲が多く漁場の変動も大きい。

まだら

資源の状態



資源の状態

北海道系群	高位・増加
太平洋北部系群	高位・増加
日本海系群	高位・横ばい

主な漁業種類: 沖合底びき網、刺し網、延縄

資源回復計画を実施
(陸奥湾産卵群)

特徴

- ・ 資源は、総じて高位・増加
- ・ 生物学的知見は十分ではなく、主に調査データや漁獲動向をベースとしてABCを算出。